

こおの交通(株)

飲 料物流を得意とする和歌山県の大十株式会社グループ企業として、主に貨物運送と倉庫業を行っておおの交通株式会社。平成25年11月に、広い駐車場と貨物を仮置きできる倉庫を求め、海南市から桃山第二工業団地へ移転しました。保有するトラックは27台で、取り扱う主な貨物は飲料関連の製品。荷受けから保管、配送まで一連の物流業務を

引き受け、県内と京阪神エリアの物流網を支えるこおの交通では、ドライバー同士で新人教育や配送先に関する情報の引き継ぎを丁寧に行うことで、顧客満足度の向上を目指しています。

代表取締役の仮谷依子さん(57)は「飲料の運送は、私たちが生きる上で必要不可欠な水を運ぶ、人々の生活を支える仕事です」と話します。



1 ドライバーと連絡を取る大崎さん。「社員同士のチームワークの良さが会社の自慢」だといいます。2 新車納品時に記念撮影する納車式。大きな鍵は、ドライバーに喜んでもらえたらと大崎さんが手作り。納車式のほか、無事故表彰なども行っています。3 社員旅行のほか、時には仮谷さんが社員に手料理を振る舞うことも。



こおの交通(株)
代表取締役 仮谷 依子さん

こおの交通では、

ドライバーの安全を第一に考え、安全講習会や2か月に1回の個人面談を実施しています。昼休みにスポーツを推奨するなど、健康面にも気遣っており「健康経営優良法人2020」の認定を取得。さらに、年2回の健康診断受診率は100%です。

また、運行前にドライバーが行う車両点検に加え、事務員が定期的に車両をチェックすることで、事故防止につながっています。ドライバーには、一人一台のトラックが支給され、勤務年数に応じて新車を支給。車種や仕様などドライバーの希望に沿った車にすることで、車両管理意識の向上を図っています。

社員はドライバー、運行管理者、事務員の計30人で、子育て中の女性ドライバーも活躍しています。自身も子育て経験のある仮谷さんは「ママは周囲のサポートがあつてこそ働けます」と話します。生活様式に合わせ、歩合給と固定給を選択可能と

し、子どもの行事の際は早退を快諾するなど、仕事と子育てが両立しやすい環境が整っています。

2年前に入社した大崎和正さん(29)は、運行管理者としてドライバーの労働時間の管理や点呼などを行っています。積み降ろしなどの倉庫業務も掛け持ちしており「様々な知識を得られることが嬉しいです」と話します。仕事をすることで、コミュニケーションを大事にしている大崎さん。社員たちの声を拾い上げ、改善に努めることで「数ある運送業者の中でも、こおの交通で働きたいと思ってもらえるような環境づくりができた」と話してくれました。

こおの交通では、毎年大小様々な催しを開催しています。バーベキューの際には、社員一丸となって机を1から製作するなど時間をかけて準備し「あまりに本格的で、初めて参加する人は驚きますよ」と大崎さん。真面目に働き真面目に遊ぶのが会社のモットーです。

「ドライバーはサービス業なので、コミュニケーションを大切にしていきたいですね」と仮谷さん。これからも、抜群のチームワークでよりよいサービスの提供を目指します。

※健康経営優良法人…健康増進の取り組みなどをもとに、特に優良な健康経営を実践している企業や法人を日本健康会議が顕彰する制度。



こおの交通(株)の
ホームページはこちら